

# 祝 辞

文部科学大臣 松 本 洋 平



第93回全国書画展覧会が、「筆の都」である広島県熊野町において開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

全国書画展覧会は、書写・書道及び図画工作・美術教育の振興に寄与する展覧会としてこれまで高く評価され、90回を超える開催実績を積み重ねてこられました。本展覧会の運営・開催に携わってこられた皆様の御尽力に対し、心から敬意を表します。

本年度も、日本全国の小・中学校や、海外24か国30地域の日本人学校等の皆さんから、書写の部及び画の部を合わせて約10万点もの素晴らしい作品が寄せられました。どの作品も力作ぞろいであります、皆さんの豊かな表現力の賜物と言えるでしょう。

そうした多くの応募作品の中から、このたび入賞されました小中学生の皆さん、誠におめでとうございます。皆さんのがこれまで努力してきた成果である作品が、本展覧会において多くの方に見ていただけることはもちろんのこと、作品集としても残ることは、大変喜ばしいことであり、我が国の書写・書道及び図画工作・美術教育の充実・発展に大きく寄与するものだと思っております。

皆さんのが熱心に取り組んでこられた書写・書道は、我が国が誇るべき伝統文化の一つであり、文字を正しく、整えて書く力を身に付け、他教科の学習や生活の中で生かすことができる大変重要な学習です。また、図画工作・美術では、表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の様々な場面における形や色、作品などと関わることで、感性が育まれ、楽しく豊かな生活を創造しようとすることなどにつながっていくものと考えます。

今後も皆さんのが、これらの学習活動を通して、感性や想像力を一層育み、一人一人の可能性を最大限に發揮することで、夢や希望を実現していくことを心から期待しています。

結びとなりますが、子供たちの学びの成果を披露する場である本展覧会の開催に御尽力された、全国書画展覧会運営委員会並びに関係の皆様に感謝申し上げますとともに、本展覧会の今後ますますの御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

# 祝 辞

広島県知事 湯崎英彦



「第93回全国書画展覧会」が、全国一の筆の生産量を誇る熊野町において、今年も盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

この度入賞された皆さんにおかれましては、誠におめでとうございます。この受賞は皆さんのたゆまぬ努力の賜物であり、また、熱心に指導に当たられた先生や、応援してくれた家族の皆さんのおかげでもあります。今後とも更なる精進を重ね、人々の心に響く素晴らしい作品を創作されますことを御期待申し上げます。

全国書画展覧会は、長い歴史と伝統を重ねた、我が国最大級の規模を誇る書画展として広く知られており、今回も約10万点もの作品が、国内はもとより海外からも出品され、国際色豊かな展覧会として、全国から高い評価を得ています。

これもひとえに全国書画展覧会運営委員会をはじめ、関係各位の長年にわたる御尽力の賜物であり、深く敬意を表する次第です。

多彩な表現を楽しむことのできる書や画は、心の教育の一環としても期待できる文化芸術として、本県におきましても、県民の皆様の文化芸術活動への一助として、作品の発表や鑑賞の機会の提供に努めているところであり、このような中で、全国書画展覧会が開催されることは誠に意義深いことでございます。

この全国書画展覧会へ来場される皆様が、新たな書画の魅力を発見していただくとともに、書画を通じた交流の輪が一層広がりますことを念願いたします。

終わりに、本展覧会の御盛会と、今後ますますの御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

# 祝 辞

広島県議会議長 中 本 隆 志



第93回全国書画展覧会が、「筆の都」熊野町において盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

また、各賞を受賞されました皆様の御栄誉を称え、心からお祝い申し上げます。

御案内のとおり、本年も、全国の小中学校や塾はもとより、海外の日本人学校などから、約10万点もの作品が寄せられましたことは、皆様方が毛筆書写書道教育及び美術造形教育の振興等に長年取り組まれてきた成果であり、深く敬意を表する次第です。

書写書道は、我が国の言語文化に親しみ、継承・発展させる基礎を築くものであり、正しく整えて書く力に加え、書に対する見方や感じ方を広げることにより、学びに向かう力や人間性を育みます。

また、絵画は、感じ取ったことや考えたことを表現する活動を通して創造の喜びを味わい、豊かな感性や情操を培うなど、どちらも子供たちの成長に様々な効果が期待されております。

熊野筆は、本年開催された大阪・関西万博にも出展され、書筆のみならず、画筆、化粧筆としても高い評価を得るなど、世界に誇る日本の伝統的工芸品であり、この展覧会が筆生産量日本一の熊野町において毎年開催されることは、伝統ある日本文化の継承を図る上でも誠に意義深いことと存じます。

私ども県議会といたしましても、引き続き、心豊かな県民生活及び活力ある社会の実現に努めてまいりますので、皆様方におかれましても、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、開催に当たって御尽力いただいた運営委員会の皆様をはじめ、関係各位に深く敬意と感謝の意を表しますとともに、全国書画展覧会のますますの御発展と、皆様方の御健勝、御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

## 祝　　辞

広島県教育委員会教育長 篠田智志



日本一の筆の産地である「筆の都」熊野町において、全国書画展覧会が盛大に開催され、この度、優秀作品として各賞を受賞されました皆様に、心からお祝い申し上げるとともに、「第93回全国書画展覧会」作品集が刊行されますことに対し、お慶び申し上げます。

今年で93回を迎える全国書画展覧会には、今年度も、国内のみならず、海外24か国30地域の日本人学校等からの出品も含め、約10万点もの作品が寄せられています。これは、長年にわたって書画の魅力を国内外に向けて発信し続けてこられた本展覧会の大きな成果であると言えるでしょう。

本展覧会に出品された作品は、それぞれの思いや努力の結晶です。思ったとおりに制作できた人もいれば、満足のいかない結果に悔しさを感じた人もいることでしょう。しかし、その一つ一つの作品は、自分にしか生み出せない、かけがえのないものです。入賞の有無にかかわらず、自身の作品を大切にし、誇りをもってください。

さて、令和7年9月25日付けて、中央教育審議会 教育課程企画特別部会において、学習指導要領改訂に向けての論点整理が公表されました。この中では、「デジタルかリアルか等の二項対立に陥らず、デジタルも最大限活用して一人一人の豊かな学びを充実させる視点が重要である」ことに触れられています。現在、児童生徒の学びの傍らには一人1台端末があることが当たり前となっています。日常生活においても、端末で文字を打ち込んだり、絵を描いたりする機会が増えていることでしょう。しかし、手書きにはデジタル機器では表現できない温かさや、歴史や文化を感じることのできるよさがあります。生成AIを利用すれば、芸術作品まで生み出せる現代に生きる児童生徒にとって、自らの経験を重ね、感性を磨きながら、個々の内面に向き合うことにより、自分がどのように表現したいかを探求し、それを手にした筆に託して実際の作品にすることの意義は、デジタルの普及に伴い、今後ますます重要になると考えられます。児童生徒のみなさんには、リアルである手書きとデジタル、双方のよさに触れながら、用具を効果的に使い、書画を愉しむ姿勢を大切にしていただきたいと思います。

全国的に高名な「熊野筆」を伝統産業としている熊野町におかれましては、「筆の都」としての特色を生かし、町を挙げて伝統文化の継承・発展に取り組んでおられます。こうした取組及び本展覧会の開催は、我が国の伝統と文化の素晴らしさに触れることができるとともに、児童生徒に生涯にわたって書画を愛好する心情を育て、文化を尊重する態度を養うためにも、大変有意義なことと考えております。

終わりになりますが、全国書画展覧会の開催に向けて御尽力いただきました関係者の皆様に、心から敬意を表しますとともに、本展覧会のますますの御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

# 祝 辞

広島県安芸郡熊野町

町長 三 村 裕 史



芸術の秋に町内外から多くの受賞者を迎える、「筆の都熊野町」において第93回全国書画展覧会を開催できますことを、関係者の一人として大変光栄に感じております。

昭和6年に始まった本展覧会は、多くの学校並びに書道塾の先生や保護者の皆様に支えられ、規模、内容ともに充実した国内最大級の公募展として、今日まで続いております。

今回も全国の小・中学校および塾など約2,600の団体から、書写の部、画の部合わせて約10万点という、たくさんの作品を応募いただきました。会場に展示されました作品を拝見いたしまして、皆様の平素たゆまぬ努力と精進あってこそこの受賞と大変敬服しているところでございます。今後とも、この受賞を励みとされ、より一層の研鑽を積み重ねられ、素晴らしい作品を創作されますことを期待しています。

また、作品の出展に際し、ご協力いただいた指導者並びに関係者の皆様には心より感謝申し上げます。

さて、熊野町では、日本一の筆の産地としての特性を活かし、筆に関わる教育の一環として、学習指導要領では小学3年生から始まる毛筆による書写教育を、小学生1年生から低学年書道科として実施するなどの取り組みを行い、筆の博物館「筆の里工房」では、園児を対象とした作品鑑賞や体験プログラムを実施するなど、子どもたちの豊かな感性と鑑賞の力を伸ばすとともに、伝統的な文化に対する理解の醸成につなげています。

今後も、筆の都熊野町として、筆文化の継承とより一層の発展に努めて参ります。結びに、この展覧会の開催に当たり、国、広島県をはじめ、関係諸団体から御支援、御協力をいただきましたことに深く感謝を申し上げまして、お祝いの言葉いたします。

## ご挨拶

全国書画展覧会運営委員会

委員長 時光良造



今年で93回の歴史と伝統を誇る全国書画展覧会が、全国から多くの小中学校や塾の先生方のご協力と児童生徒の努力、保護者の皆様のご支援により盛大に開催できますことに、心より深く感謝を申し上げます。

「筆といえば熊野を思い、熊野といえば筆を想う」熊野町は書筆、画筆、化粧筆の全国一の生産量を誇る筆の都です。熊野町における全国書画展覧会は、国語の基礎基本である文字教育と日本の伝統的な文化である書写書道、また、図画工作・美術教育の振興と発展に寄与することから運営を進めています。

今回は全国47都道府県から小学校442校、中学校923校、塾等1165団体、また海外からも24か国30地域の日本人学校から、合わせて約10万点の作品を出品していただきました。

この度、栄えある賞に入賞されました児童生徒の皆さん、誠におめでとうございます。受賞された皆さんには、今回の受賞を励みとし今後も一層精進していただきたいと思います。また、優秀校に選ばれました学校におかれましては、校長先生をはじめ先生方の熱心なご指導と児童生徒の努力の賜物であり、深く敬意を表しあ慶びを申し上げます。

審査につきましては、現在の教育課題に適応した内容などを審査とするため、学校での指導を公平に下審査した後、10月中旬の最終審査では、審査長として文部科学省から書写と画の教科調査官の先生方を熊野町へお迎えして、学習指導要領に則った教育本位の審査を行っていただきました。

今回は11月22日から3日間、熊野町民会館において筆都大賞以上の優秀作品約千点の展示を行うとともに、11月23日には全国から特別賞の受賞者を迎えて表彰式を開催します。また、展覧会場の様子は、全国から見ていただくことができるようホームページで12月から配信いたします。

結びに、本展覧会の運営及び開催に当たり、内閣府、文部科学省、広島県、広島県教育委員会を始め、共催やご後援、そしてご協力をいただきました関係各機関・団体に対し、厚くお礼を申し上げまして、ご挨拶といたします。